

2.2. 図画工作科指導者のためのステップアップ式実技映像教材の開発

美術教育講座 佐藤賢司

ksato@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

1 教材開発の背景と動機

「図画工作科教育法」や「小専図画工作」の授業時などに学生の話を見ると、将来の図画工作の指導に不安をもつ者が思いのほか多い。制作することが苦手であるとか、経験したことがない教材がある、または絵の具やその他道具の正しい使いかたがわからないことなどが主な不安の原因である。実際に高等学校で美術を選択していない学生は、少なくとも学校では中学校以来美術制作を経験していないことになるので、実技に対する不安があることはいたしかたないことだろう。

けれども、教師になって実技教科である図画工作を指導する以上は、制作についてある程度の技能や知識が必要であり、それを在学中の学習で身に付けなければならない。学生の実技に対する不安を少しでも解消するため、「小専図画工作」での学習をより効率的にし、学生の自学自習を支援するような教材が必要であると考えた。

2 今回の教材の目的とねらい

本映像教材の対象は、主に本学の「小学校教員を目指す学生」、中でも大多数の「美術専攻ではない学生」である。さらに言うのならば「図工実技を苦手としている学生」といってもよい。

図画工作は実技教科であるため、「描くこと」や「つくること」といった実際の作業抜きには授業が成立しない。本教材は、作業工程の具体的なイメージを捉え、安心して実際の作業に取り組めるよう、絵の具や彫刻刀などの基本的な用具を用いた簡単な制作を映像にするものである。これによって学生の実技についての理解を促すことがねらいである。

また、技法ごとに分類して説明するのではなく、「絵の具にはどんなつかいかたがあるのだろう？」や「写すってどういうことだろう？」といった、表現の基本的な原理から導入することで、材料や表現の可能性をひらくこともねらいとしている。

「小専図画工作」に授業においては、導入部分にこの教材を用いることで、基本的事項についての指導時間が短縮でき、学生の応用的制作の体験を広げることが出来る。

3 教材開発の概要

○教材開発の手順

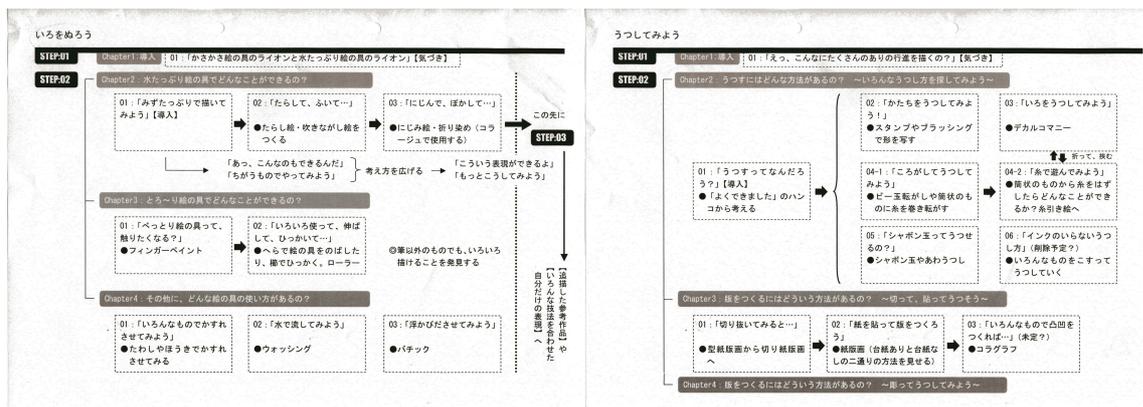
本映像教材は「小専図画工作」の授業での活用を第一の目的としているため、まずは本学で授業を担当している須増啓之講師と協議し、これまでの「小専図画工作」授業内容や、平成20年度の教育研究プロジェクト経費（教員養成課程学士課程教育再構築経費）の報告書、

さらには多種技法書などを参考に、具体的な撮影内容を検討した。続いて、参考作品、試作品の制作、学生をモデルとした実際の作業工程の撮影などを行い、編集して1本のDVDにまとめるという手順で教材を開発した。

○この教材の特徴

DVDは、おおまかに「色をぬろう」「写してみよう」「貼ってつくろう」という三つの領域で構成した。

通常このような教材の場合、「絵」「版画」「コラージュ」などと分類することが一般的だが、本教材では、そのような技法の名称ではなく、材料や方法の原理から導入し、展開することとした。このように、従来の技法書などとは考え方を変えたことがこの教材の大きな特徴である（以下チャプタープラン参照）。



また、領域内の各チャプターの作業については、基本的な材料や方法の原理、及びその初歩的な発展形にとどめ、手元や材料の変化する様子を追った映像を多用し、作業を理解しやすいものとした（以下撮影プランと実際の画面の一部参照）。

「色をぬろう」撮影プラン（一部）

いろをぬろう		うつつてみよう		はってつくろう		おまけ	
No.1							
CHAPTER:1 導入				01:「かきかき絵の具のライオンと水たまり絵の具のライオン」			
作業内容				①水が少なめのパスタ絵の具で描く「ライオン」 ②水たまりのシャキシャキ絵の具で描く「ライオン」 →パレットや筆を使って描く。基本的な絵の具の使い方を			
撮影メモ				・制作途中をよる ・絵の具の感じ（シャキシャキの音、にじむ感じ）			
撮影物				絵の具、筆、筆洗、パレット、画用紙			
その他				※途中で顔色や筆をならべらる ・どうやって筆を洗っているのか 道具の使い方をつつすのか			
○具体的に作品をカラフルでインパクトのあるものにする							

いろをぬろう		うつつてみよう		はってつくろう		おまけ	
No.4							
CHAPTER:2 水たまり絵の具でどんなことができるの？				02:「たらし、吹いて」～②吹きながし～			
作業内容				①画用紙に凍らせた絵の具を息で吹く作品①勢よく吹くと飛び散る ②ストローで吹く作品 ・横から吹いて、絵の具をいろんな方向に流していく方法 ・上から一気に吹いて、全方位に広がる方法 ※にじみながら流れていく作品			
撮影メモ				・結構大変で息切れがしてしまう様子を見る ・吹き方の違い（上から、横から）がはっきりわかる			
撮影物				絵の具、筆、筆洗、パレット、画用紙、ストロー（吹くための）、スプーン・筆入れ（絵の具を盛り取り、落とす）			
その他				・大きい画用紙で見せる ・ステップアップ作品をどこで見せるか？ →発想、つくっているところを一緒に見せるのか？			
○ステップアップ作品							

いろいろろう うつしてみよう ほってつくろう おまけ No.6

CHAPTER.2	水たまり絵の具でどんなことができるの？	 <p>▲折り染め（折り方の工夫①）</p>  <p>▲折り染め（折り方の工夫②）</p>
03：「にじんで、ぼかして…」～2折り染め～		
作品内容	①いろいろな折り方をすると模様が変わるような折り染め作品（3重くらい遊ぶ） ②色の濃さを変えてできる折り染め作品 ③濃い・薄い・濁った色の都一重の具のイメージの方がインパクト	
撮影メモ	①折って、色をじませると模様ができる構造を知る ②紙を色水につけると絵の具を吸っていきシーンがはじめに必要 ③広げる瞬間、模様が出てくるときの楽しさ	
準備物	絵の具、筆、筆洗、パレット、画用紙、障子紙 色の絵の具を入れる容器（数色）→パレットで色をつくってもいい	
その他	・あまり大きい紙だとやりにくいかも…	

「写してみよう」撮影プラン（一部）

いろいろろう うつしてみよう ほってつくろう おまけ No.7

CHAPTER.3	版をつくるにはどんな方法があるの？～切って貼って～	 <p>▲用意された同じ素材を使う 大きさが異なる各パーツ</p> <p>▲2つの方法でのりで貼っていく</p> <p>▲ロボットと模様を印刷する</p>
02：「紙を貼って版をつくらう」		
作品内容	①○△□などの用意された同じパーツで各種の紙版をつくる ②画用紙（台紙）の上で○△□などのパーツを置いたり、組み合わせて貼って、模様をつくる→台紙に複製される ③○△□などのパーツをそのまま組み合わせて貼って、ロボットをつくる ④異なる紙を貼って、サイズに複製なし ⑤角の字紙に貼る工程（黒インクか、カラーインクか？） ⑥貼って、段差ができていくところを見る	
撮影メモ	①貼って、段差ができていくところを見る	
準備物	画用紙・水性インク、ヘラ、トレー、画用紙ローラー、のり、馬糞、刷毛 角の字紙、新聞紙、糊巾、 画用紙・厚紙（パーツに切り分けて用紙する）、はさみ、	
その他	①台紙にはる紙は白画用紙でもいいか？→グレーでも…	

撮影予定日： 月 日 ()
撮影日： 月 日 ()

いろいろろう うつしてみよう ほってつくろう おまけ No.9

CHAPTER.4	版をつくるにはどんな方法があるの？～彫ってうつす～	 <p>▲花火をイメージして彫る</p>  <p>▲各形彫刀の特徴からイメージを考える（魚のうろこなど？）</p>
01：「彫削刀を使ってみよう」（花火をつくらう）		
作品内容	①彫削刀のそれぞれの彫りの効果を見る→彫削刀の使い方、持ち方 ②三角刀や丸刀で「花火」（版にあたりをつけておく）を彫る ③切り出し刀で「 」を彫る	
撮影メモ	①彫っている手元や彫削刀の正しい使い方がわかるように ②彫りあとがしっかり見える	
準備物	彫削刀、版木（シナベニヤ）、作業台	
その他	①彫ったパターンを組み合わせる？（応用編？）	

撮影予定日： 月 日 ()
撮影日： 月 日 ()

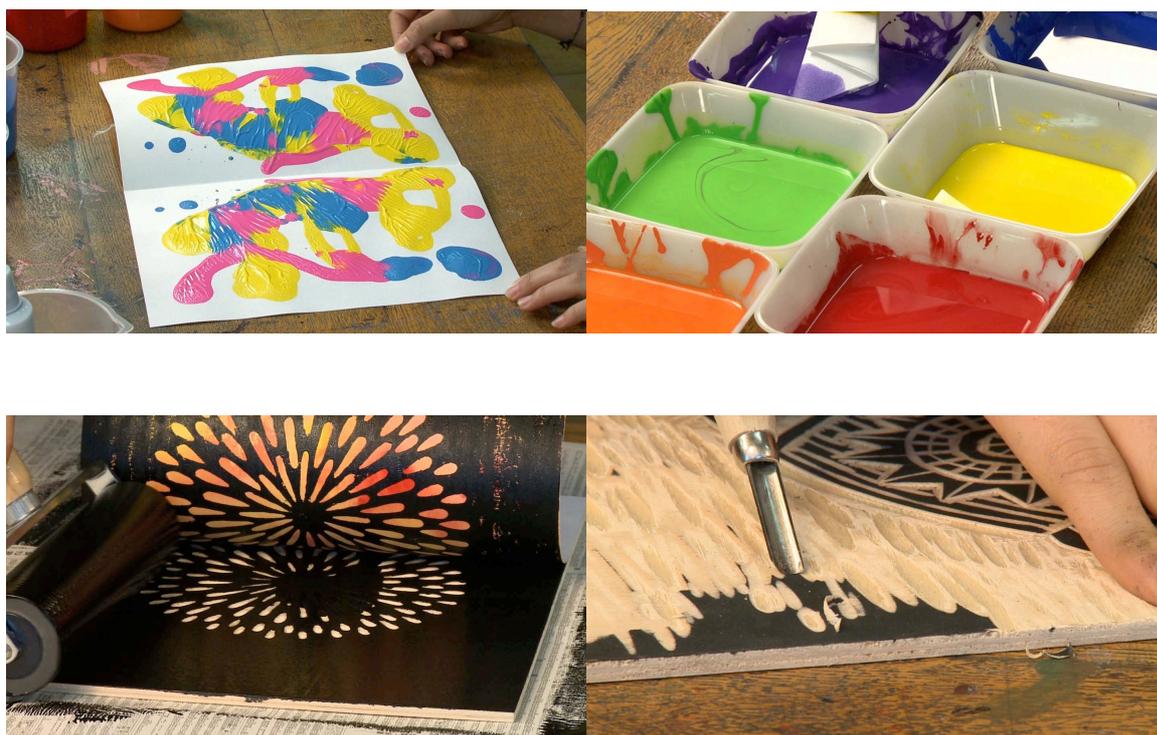
いろいろろう うつしてみよう ほってつくろう おまけ No.10

CHAPTER.4	版をつくるにはどんな方法があるの？～彫ってうつす～	 <p>▲にじみで刷る紙をつくる</p>  <p>▲その上に刷ると下の色がでる</p>
02：「紙に刷ってみよう」（花火をつくらう）		
作品内容	①にじみでオリジナルの刷り紙を作り、その上に刷る ②刷る工程を繰り返して作る ③専用インクをつける→馬糞の使い方など ④後片付けは？	
撮影メモ	①刷って、版から刷り紙を開ける瞬間を感動的に	
準備物	画用紙・水性インク、ヘラ、練り版、画用紙ローラー、のり、馬糞、刷毛 角の字紙、新聞紙、糊巾、 刷った版木	
その他	①いろいろな紙多分ついておいて、切り抜いて刷りに見立てる ②切り抜いて版などをつけて「ヤマアラシ」にするなど【動物や鳥、鳥など】	

※ステップアップでできたものを切り抜き、黒紙（大きめ）に複数の花火を貼る。
撮影予定日： 月 日 ()
撮影日： 月 日 ()







○残された課題や今後の展開

今回は、平面の造形のみを扱ったが、この教材開発の目的からはすると、「工作編」「立体造形編」「造形遊び編」なども必要である。なかでも「工作編」「立体造形編」は制作が急がれる。なぜなら、粘土や木材の立体・工作などは材料の特性や用具の安全使用の理解の面からも、映像教材がきわめて有効と考えられるからである。

全体の構成を再度吟味し、図工実技の大半をカバーする教材を構築したい。

○まとめ

実技教科での映像教材の有効性を検討し、さらに効果的な教材を継続的に開発することが望まれる。